

京都大学学術情報メディアセンター大型計算機システム利用負担金規程新旧対照表

改正前	改正後
<p>(前 略)</p> <p>別表 1 } 別表 2 } (略) 別表 3 }</p>	<p>附 則 (令和 6 年 2 月総長裁定) この規程は、令和 6 年 4 月 1 日から施行する。</p> <p>別表 1 (別添) 別表 2 (別添) 別表 3 (別添)</p>

別表1 スーパーコンピュータシステム

区分			利用負担額	提供サービス					
コース	タイプ	セット		システム	バッチ	システム資源	経過時間 (時間)	ストレージ (TB)	無料 利用者数
エントリ	-	基本	12, 600 円/年	B	共有	最大0.5ノード相当((112コア、512GBメモリ)×0.5)	1	0.2	-
パーソナル	タイプA	基本	100, 000 円/年	A	共有	最大2ノード相当((112コア、128GB高速メモリ)×2)	168	8.0	-
	タイプB	基本	100, 000 円/年	B	共有	最大2ノード相当((112コア、512GBメモリ)×2)	168	8.0	-
	タイプC	基本	100, 000 円/年	C	共有	最大1ノード相当((112コア、2048GBメモリ)×1)	168	8.0	-
	タイプG	基本	100, 000 円/年	G	共有	最大1GPU相当((16コア、128GBメモリ+1GPU)×1)	168	8.0	-
グループ	タイプA0	最小/追加	110,000 72, 000 円/年	A	準々優先	1ノード((112コア、128GB高速メモリ)×1)	168	6.4	2
	タイプA1	最小/追加	275,000 180, 000 円/年		優先	1ノード((112コア、128GB高速メモリ)×1)	336	16.0	4
	タイプA2	最小/追加	330,000 108, 000 円/年		準優先	2ノード((112コア、128GB高速メモリ)×2) 1ノード((112コア、128GB高速メモリ)×1)	336	19.2 9.6	6 3
	タイプA3	最小/追加	412,500 270, 000 円/年		占有	1ノード((112コア、128GB高速メモリ)×1)	336	16.0	4
	タイプB0	最小/追加	120,000 80, 000 円/年	B	準々優先	1ノード((112コア、512GBメモリ)×1)	168	6.4	2
	タイプB1	最小/追加	300,000 200, 000 円/年		優先	1ノード((112コア、512GBメモリ)×1)	336	16.0	4
	タイプB2	最小/追加	360,000 120, 000 円/年		準優先	2ノード((112コア、512GBメモリ)×2) 1ノード((112コア、512GBメモリ)×1)	336	19.2 9.6	6 3
	タイプB3	最小/追加	450,000 300, 000 円/年		占有	1ノード((112コア、512GBメモリ)×1)	336	16.0	4
	タイプC0	最小/追加	132,000 88, 000 円/年	C	準々優先	1ノード((112コア、2048GBメモリ)×1)	168	6.4	2
	タイプC1	最小/追加	330,000 220, 000 円/年		優先	1ノード((112コア、2048GBメモリ)×1)	336	16.0	4
	タイプG0	最小/追加	86,000 58, 000 円/年	G	準々優先	1GPU((16コア、128GBメモリ+1GPU)×1)	168	6.4	2
	タイプG1	最小/追加	430,000 290, 000 円/年		優先	2GPU((16コア、128GBメモリ+1GPU)×2)	336	32.0	8
大規模ジョブ	タイプA	最小	110,000 72, 000 円/週(7日)	A	占有	8ノード((112コア、128GB高速メモリ)×8)	168	-	-
		追加単位	27,500 18, 000 円/週(7日)			2ノード((112コア、128GB高速メモリ)×2)		-	-
	タイプB	最小	120,000 80, 000 円/週(7日)	B	占有	8ノード((112コア、512GBメモリ)×8)	168	-	-
		追加単位	30,000 20, 000 円/週(7日)			2ノード((112コア、512GBメモリ)×2)		-	-
専用クラスタ	タイプB	最小	900,000 600, 000 円/年	B	-	2ノード((112コア、512GBメモリ)×2)	-	32.0	8
		追加単位	450,000 300, 000 円/年			1ノード((112コア、512GBメモリ)×1)		16.0	4
ストレージ	大容量ストレージ		10, 000 円/年	大容量ストレージ容量10TBの追加につき					
	高速ストレージ		10, 000 円/年	高速ストレージ容量2TBの追加につき					
	ネットワークストレージ		5, 000 円/年	ネットワークストレージ容量1TBの追加につき					
ライセンスサービス			20, 000 円/年	可視化ソフトおよびブリポストウェアの1ライセンスにつき					

備考

- 利用負担額は、年度単位（大規模ジョブコースは週単位）で算定している。また、総額表示である。パーソナルコース、グループコース又は専用クラスタコースを年度途中から利用を開始する場合及び年度途中で利用を終了する場合の利用負担額は、上記表中の利用負担額を12で除した後、利用月数を乗じて算出するものとし、100円未満に端数が出た場合は、10円単位を四捨五入するものとする。なお、月途中から利用を開始する場合及び月途中で利用を終了する場合は、それぞれ1月の利用とする。
- 大型計算機システムの全ての利用者は、上記表のサービスの他、次のサービスを受けることができる。
 - 大判プリンタサービス
 - その他、大型計算機システムが提供するサービス、機器の利用
- 上記表の大規模ジョブコース、ストレージコース、ライセンスサービスの申請利用には、**スーパーコンピュータシステムエントリコース、パーソナルコース、グループコース又は専用クラスタコース**の利用者であることが必要である。
- 上記表のバッチの種類は、次のとおりとする。
 「共有」：当該カテゴリのユーザ間で一定の計算資源を共有するベストエフォートのスケジューリングを行う。
 「準々優先」：定常稼働状況において記載値の計算資源が確保されるようにベストエフォートのスケジューリングを行う。
 「準優先」：定常稼働状況において記載値（以上）の計算資源が確保されるように準優先スケジューリングを行う。
 また、稼働状況によらず記載値の1/4の計算資源が確保されることを保証する。
 「優先」：定常稼働状況において記載値（以上）の計算資源が確保されるように優先スケジューリングを行う。
 また、稼働状況によらず記載値の1/2の計算資源が確保されることを保証する。
 「占有」：稼働状況によらず記載値の計算資源が確保されることを保証する。
- システム障害、電力不足又は電気代の高騰に伴う節電、天災等の要因により、定常稼働が困難な状況においては、上記表に規定するバッチにかかわらず、ベストエフォートのスケジューリングを行う。
- ストレージ容量はバックアップ領域（最大で総容量の1/2）を含む。
- グループコース及び専用クラスタコースの利用者番号は、利用者あたり年額5,000円を負担することで追加できる。
- 機関・部局定額制度
他機関又は学内における部局（『国立大学法人京都大学の組織に関する規程』第3章第2節から第11節で定める組織をいう。）の組織が、その組織単位でグループコース**サービス**を利用申請する場合の利用負担額は、別表1に規定する1.5倍の額とする。なお、利用負担額が年額150万円未満の場合は100人、年額150万円を超える場合は、150万円毎に100人までの利用者を認める。ストレージは、1.5倍の容量とする。
- スパコン連携サービス
学術情報メディアセンターのスーパーコンピュータシステムと密な連携により、学内における部局の組織が計算サーバ等を設置する場合、下記の負担額を支払うものとする。

区分	冷却方式	利用負担額	利用負担額算定単位
スパコン連携サービス	水冷	23,200 15, 300 円/月	水冷冷却方式の計算サーバ等の定格電力 1kWにつき
	空冷	27,500 18, 100 円/月	空冷冷却方式の計算サーバ等の定格電力 1kWにつき

別表2 アカデミッククラウドシステム

区 分	利用負担額	単 位
仮想サーバ ホスティングサービス	38,400円/年	1仮想サーバにつき

備考

~~1. 利用負担額は、総額表示である。~~

1. 利用負担額は、年度単位で算定している。また、総額表示である。
年度途中から利用を開始する場合及び年度途中で利用を終了する場合の利用負担額は、上記表中の利用負担額を12で除した後、利用月数を乗じて算出するものとし、100円未満に端数が出た場合は、10円単位を四捨五入するものとする。
なお、月途中から利用を開始する場合及び月途中で利用を終了する場合は、それぞれ1月の利用とする。
2. 上記表の仮想サーバホスティングサービスを利用するには、スーパーコンピュータシステムの利用者であること。
3. 1仮想サーバに割当てるシステム資源は、CPU：2コア、メモリ：4GB、ディスク：100GBである。
4. 仮想サーバホスティングサービスにおいて、下記の負担額を支払うことによりCPU、メモリ、ディスクを増量することができる。なお、負担額の算定及び算出方法は、備考1に準ずるものとする。

区 分	利用負担額	単 位
CPU増量	3,600円/年	2コアにつき(最大8コアまで)
メモリ増量	3,600円/年	4GBにつき(最大64GBまで)
ディスク増量	7,200円/年	100GBにつき(最大1,000GBまで)

5. 利用負担額は、当該年度(4月から翌年3月まで)の利用に対して年額として算定するが、
~~—年度途中から利用を開始する場合及び申請時において年度途中で利用を終了することが
—明らかな場合には月数に応じて減額する。~~

別表3 スーパーコンピュータシステム（民間機関利用）

システム	システム資源	経過時間 (時間)	ストレージ (TB)	無料 利用者数	利用負担額
A	2ノード((112コア、128GB高速メモリ)×2)	336	19.2	6	1,320,000 864,000 円/年
	3ノード((112コア、128GB高速メモリ)×3)	336	28.8	9	1,980,000 1,296,000 円/年
	4ノード((112コア、128GB高速メモリ)×4)	336	38.4	12	2,640,000 1,728,000 円/年
B	2ノード((112コア、512GBメモリ)×2)	336	19.2	6	1,440,000 960,000 円/年
	3ノード((112コア、512GBメモリ)×3)	336	28.8	9	2,160,000 1,440,000 円/年
	4ノード((112コア、512GBメモリ)×4)	336	38.4	12	2,880,000 1,920,000 円/年

備考

- 利用負担額は、年度単位で算定している。また、総額表示である。
 年度途中から利用を開始する場合及び年度途中で利用を終了する場合の利用負担額は、上記表中の利用負担額を12で除した後、利用月数を乗じて算出するものとし、100円未満に端数が出た場合は、10円単位を四捨五入するものとする。
 なお、月途中から利用を開始する場合及び月途中で利用を終了する場合は、それぞれ1月の利用とする。
- ストレージ容量はバックアップ領域（最大で総容量の1/2）を含む。